

# もみじ

— 広島県山岳連盟会報 —



一般社団法人 広島県山岳連盟

〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail: hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

## 韓国大邱広域市高校生交流登山

### 登山を通じて国際交流深める

#### 比婆山・大山・宮島

7 月 25 日交流会開催

次世代を担う高校生が登山を通じて国際交流を深めることは大変意義のあることだと思っている。

このたび大邱市高校学生山岳連盟約 30 名（生徒と引率役員）が広島を訪れた。目的、ニッチは次のとおり。

#### 目的：

若き岳人の国際交流（広島県高体連登山部と韓国大邱市高校山岳連盟との交流）、高校連加盟各校の登山部員の研修、高校生間の交流と意見交換、岳連と高体連の交流及び技術交流。

#### 日程：

7・21 (日) 釜山港発

7・22 (月) 7:30 下関港 13:00 比婆山県民の森 手曳山、伊良谷山、毛無山

7・23 (火) 出雲峠、烏帽子山、御陵、池の段、立烏帽子、篠尾根、六の段

7・24 (水) 大山 18:00 県民の森

7・25 (木) 宮島、祇園モール 歓迎会（アステールプラザ）

7・26 (金) 下関

一行は比婆山県民の森、大山及び宮島で交流を深め、7 月 25 日広島アステールプラザで広島岳連関係者と

の交流歓迎会を行った。

高校生交流会は 2000 年（平成 12）より実施、今年で 14 年目となる。



**日韓交流 1** 左から懇親会で乾杯する大邱広域市車団長、京才会長、山田理事長、豊田事務局長

## 第 3 回 クライミングスクール感想文

### 眞鍋康行

私は、リタイア後のライフプランとして、若い頃やっていた登山をやろうと、3 百名山と北アルプス縦走（親不知～中の湯）を目標に登山を始めました。山行では、一般登山道だけでなく、断崖絶壁の岩稜や鎖場などスリリングな場所に遭遇する事も再三あります。若い頃は、なんでもなかった登山道が怖いと思う事が再三ありました。怖いと色々考えたり、足がすくんだり、肩に力が入ったりしますので、これが事故につながるのではと思うような事がありまして、そしてその

不安を解消する為にクライミングスクールを受講することにした次第です。

### 初めてのクライミングに緊張

第1回は、天候によりインドアでの受講でしたが、この時の授業で一番感じた事は、ビレイの重要性と難しさです。怠慢なビレイによるミスが大きな事故に繋がる事を認識しました。

第2回は、烏帽子岩の岩場での受講でしたが、初めてのクライミングで緊張しました。

リードとビレイを交互におこなったが、ビレイの時にリードからテンションと声があったが、意味が分からずにとまどっていると、補助の先生よりロープが緩いから張ってくれと言っていると教えてもらい、あわててロープをたぐりました。ロープの結び方は、もちろんではあるが、クライミング用語も早く覚えて、自分とパートナーの意思疎通がしっかり取れるようにならないと認識しました。

第3回は、銀座尾根まで登りそこでの受講でしたが、最初はビレイヤーの担当でエイトノットでハーネスにロープを結び、セルフビレイをセットし、手袋、ATCの装着が完了したら、リードする人と互いの装備について声を出してチェックする。これは、前回やった事なのでスムーズにできなければならない事であったが、できずに先生に注意されてしまった。(反省)クライミングは、前回より難しくなり登る事に一生懸命でプロテクションからロープを外す事を忘れて、最後の一登りがなかなかできず、時間がかかってしまった。(反省)

セカンド地点でのビレイは、ムンターヒッチでの作業でしたが、下からのビレイと違ってリードする人の姿が見えず、ロープの出し入れが難しかった。スムーズに作業する為には、お互いに声を掛け合い又、ロープの引かれるスピードにより相手の状況を理解し、確保しなければと認識しました。

懸垂下降は、エイト環の装着作業がスムーズにいかず反省。下降始めは、下を見て恐怖を感じたが、コツのみこめたら楽に降りられました。

歳をとってからの技術習得という事で精神・肉体的プレッシャーは自分でもすごくありますが、最後まで

頑張りますのでご指導のほど宜しくお願いします。



### 日韓交流2

7/25の日韓交流会に参加した大邱広域市女子高校生

## 確実に手際よく出来るよう頑張りたい

掛川チヨエ

(マルチピッチクライミング 7・21 天応)

岩を登ること自体も難しいですが、ロープワークの専門用語がなかなか覚えられない。

家でロープ、カラビナで練習するが、現場で自己確保、ビレイするとき、懸垂下降等のロープの扱いに手間取る。器具やロープの働きを理解し確実に手際よく出来るよう頑張りたいと思います。

頭で覚えるのではなく、体で覚えるもの

(7/21 (日) 天応烏帽子岩)

蜂谷英稔

4月から始まったスクールも今回で4回目。前回に引き続き、天応の烏帽子岩が講習会場です。今回は、午前中マルチピッチクライミングでのフォロー技術、午後はトップロープによるクライミング技術の講習を受けました。

朝から灼熱の太陽が照り付ける中でスタート。集合場所から講習場所のナメラ岩へ行くまでに、既にバテ気味に。早速、水分補給し、気を引き締め準備していると、講師の方が手際よくタープを張って、日陰を作

ってくれました。講師の方の、気の利いた配慮には、頭が下がります。

午前中のマルチピッチクライミングでは、ナメラ岩にルートを作り、講習を行いました。2ピッチ登って、最後はラッペルで降りるルート。前回のスクールで、銀座尾根でのマルチピッチクライミングだったので、教わったことが身に付いていなく、緊張と不安の中、登り始めました。スムーズとは言えませんが、登ること自体は、どうにかできました。しかし、中間点でのシステムの構築になると、頭の中が混乱し、講師のアドバイスがないと手が動きません。メインロープによるセルフビレイ、ロープの手繰り寄せ、フォロアーのビレイ等々。狭い壁の中での、慣れない作業と手際の悪さで、時間だけがかかっていました。家での予習、復習が本当に大事だなと痛感しました。

午後からは、同じナメラ岩でトップロープによるクライミングの講習。2本のルート（「第1ポピュラー」と「ルート名不明：凹角の左側」）を用意して頂き、クライマーとビレイヤーを交替しながら練習しました。この頃になると、日陰がなくなり、どこにいても太陽が照り続けます。このため、暑さで体力が限界寸前。第1ポピュラーを登っているときは、終了点が果てしなく長く感じ、何度か緊張感が切れそうになりながらも、気合と根性で登りました。他の生徒さんたちも、この頃になると、口数も減り、さすがに疲れた様子でした。

皆さんが、一通り登ったところで、本日の講習が終了。今回も、盛り沢山の内容で、大変充実した講習でした。心地よい緊張感と解放感。クライミングの楽しさが回を重ねるごとに増して来ています。一方で、危険を伴うスポーツであるため、様々な知識と技術、さらには体力や集中力の重要性も感じているところです。

最後に、今回の講師の方の名言です。

『クライミング技術は、頭で覚えるのではなく、体で覚えるもの！』

次回まで、ベランダの手摺を利用して、システムの構築を試してみようと思います。



日韓交流3 歓談する日韓交流会出席のメンバー

### 宮島太郎の会が入林許可取得

ボランティアとしての修理・清掃活動

宮島太郎の会 山本拓志

会は2006年に宮島西部の海岸沿いの道あての木ルートを復旧整備し、2007年に会を設立した時から、宮島の自然・歴史・文化の探訪を楽しんでいます。弥山登山を始めとして、宮島の海岸を歩いたり、宮島の尾根道を縦走したり、厳島合戦史跡や明治時代の砲台跡や太平洋戦争史跡などを巡ったり、宮島を周回している道を探索したりしています。宮島のガイドブック「弥山登り」2003の<宮島全図>に宮島の自然・歴史・文化を探訪する道が簡潔によく示されています。会は<宮島全図>の道を歩いています。

会が歩いている道は宮島国有林の中の既設歩道でもあります。会が歩く道の中には自然に埋もれかけた箇所が少なからず見受けられます。そのような箇所では、既設歩道の復旧整備として、歩行の妨げになる倒木・雑木・雑草の片付け・枝打ち・刈払を行ってきました。

<宮島全図>に一つだけ名前の付いた道があります。牛馬道です。青海苔浦と大川浦を結ぶ道の名前です。宮島国有林の中の既設歩道の一つです。会は牛馬道の自然に埋もれかけた箇所の復旧整備を初回は2007年12月～2008年1月に、2回目を2012年の3月～7月に行いました。

2013年5月5日に、牛馬道を含む宮島太郎の会整備箇所について、宮島国有林の土地所有者、自然公園

法、文化財保護法、風致地区の許認可業務担当者により宮島遊歩道調査(宮島太郎の会整備箇所)が実施されました。5月29日には廿日市市役所で宮島太郎の会も出席し宮島遊歩道協議(宮島太郎の会整備箇所)が行われました。

協議では、宮島国有林の中で登山道は三本の弥山登山道だけで、その他の既設歩道は登山道ではないと明言がありました。そして、宮島遊歩道という名前の道は宮島国有林の中にはないと言われました。遊歩道は安全安心に歩ける道と誰もが思うが、宮島国有林内の既設歩道では、事故が発生し、入林者が損害を受けることがあっても、国は一切その保障等の責を負わないことになっていると指導を受けました。

さらに、歩道法面と踏み面の修復を伴わないで、歩道内の倒木の片付・雑木の枝払・下草の刈払だけの活動では復旧整備とは言えない。会が行っているのは道の修理・清掃活動である。会がボランティア活動として道の修理・清掃活動を続けるには、入林目的を既設歩道の修理・清掃とし、広島森林管理署の入林許可を取得するようにと指導を受けました。

会は宮島国有林内の既設歩道に宮島歩道という名前を使うことにしました。宮島歩道は宮島を歩く道です。宮島を歩くにはなくてはならない道です。会は、2013年6月以後はボランティア活動として宮島歩道の修理・清掃活動を行うことを目的とした入林許可を取得して、ボランティア活動を行っています。広島県山岳連盟関係者有志の皆様、宮島の山と海岸愛好者有志の皆様には会が許可を取って行うボランティア活動にこれまで以上の参加協力をお願いします。これからも宮島を楽しみましょう。

## 2012～2013 年度 第 15 回登山教室をおえて

日時：7月26日～30日

登山形態：テント泊縦走

山城：北穂高岳、涸沢岳、奥穂高岳、前穂高岳

参加者：8名(スタッフ含)

報告者：指導部 森本 覚

今回は応用編の前期(夏山登山)の目標である奥穂高岳のジャンダルムを目指して出発しました。しかし登頂ならず…。

綺麗な景色も見れず、ジャンにも登れずの結果でしたが、受講生の皆さんは山から大事なモノをプレゼントされたとは思っています。

### 山頂に立つ登山教室の皆さん



## 穂高連峰で学んだこと

### 登山教室 山本 雅良

7月27日から29日にかけて、三日間の行程で穂高連峰を歩いて来ました。

初日は、ほとんどハイキング気分で歩いていました。しかし横尾で、遭対協の方が、我々のコースの確認を行い、コース上の事故件数の多い箇所を教えて下さいました。

どうやら最終日の重太郎新道が、最悪の事故件数のようです。

屏風の頭を左手に見ながら、本谷橋を過ぎて、暫く行くと、涸沢カールの雪渓がまだ残っていました。

朝7時17分に出て、涸沢ヒュッテ到着が14時35分。休憩時間を入れて、7時間18分の移動でした。

**28日 4時起床、6時出発。**

涸沢小屋のそばから北穂高岳の南稜に取り付く。途中、離合の多い鎖場は、左側の岩場をクライミングして抜けることが出来ました。

北穂高岳に着いたのが、10時35分。大キレット側に降りて、北穂高小屋でコーヒータイム。ここまでは、まだまだハイキング気分だった。

所がここから山の様相が一変する。

ただひたすら、岩のエッジに指をかけて、登る、下るの連続。岩が手のひらの体温を、どんどん吸収するので、こらえきれずに手袋をする。

曇っているので景色は全く見えないが、おかげで神経の集中を持続させることが出来た。お昼ごろからは、雨と風で、それだけでなく遅いペースが、どんどん遅くなった。涸沢岳をへて、ヨレヨレになって穂高岳山荘に着いたのが、15時30分頃だから、安全第一に歩くと、今の我々のレベルでは、こうなってしまうということだ。

## 29日 3時起床、5時15分出発。

昨日のペースと、本日の天候の悪化から、奥穂高岳からジャンダルム往復は中止。

奥穂高岳に着いたのが、6時22分。猛烈な風で、山頂をそのまま通りすぎて、風のない所で休憩。ここから吊尾根を紀美子平まで歩くのだが、風と雨がますます強くなる。紀美子平まで来た所で、女性二人に低体温症の症状が出始めた。

Iさんが、さっとテントのフライシートを取り出し、中に風が入らないように、皆で周りを押さえ、即席のテントを作った。中で、乾いた下着に着替えること、温かい飲み物をとること、行動食をとること、などの指示を出し、おかげで20分~30分くらいで回復した。

そんな訳で、ここから前穂高岳への往復はあきらめて、一路重太郎新道を下り、上高地に降りることとなった。

降りるに連れ、雨も風もどんどん弱まり、岳沢小屋につく頃は、暑くてたまらないので、1枚脱いだ。

今回は、ある意味、登山教室としては、最高のコンディションだったかもしれない。

天気がよい日に、気持ちよく歩いたのでは得られない多くのものを、得ることが出来たような気がする。

## 登山教室 2年目の夏の総決算！

### 登山教室 小家石 美雪

今回の山行は登山教室2年目の夏の総決算！

しかし、私にはまだ、体力不足、認識不足、経験不足、等々と足りない物だらけで、自分自身の未熟さを痛感する山行でした。穂高はキビシカッタです。

7月27日上高地のバスセンター a m 7 : 15。1ヶ月以上前からずっとドキドキ。いよいよ出発。いきなり雨の洗礼！途中の炊事棟で暫く雨宿りの後出発。今回の山行は雨具をフル活用。晴れ女の私には不慣れだった。雨は止んだが、荷物の軽量化が出来ておらず、すでに体力不足。青色吐息で横尾から涸沢のテント場に、p m 14 : 45到着。

7月28日 a m 6 : 05 涸沢出発。 a m 9 : 00 稜線に出たという。しかし、中国地方の山と違い、ここからが本番。気の抜けない岩稜歩きが続く。ここからは殆ど白一色。遠景は見えない。 a m 10 : 35 北穂高岳山頂。山小屋でコーヒーを頂く。この休憩が有難かった。少々高山病気味か？岩稜が続く。後ろを待ちさあ、出発という時、一人が下のテラス落下。すぐさまインストラクターの皆様が駆け下り救助。大丈夫そうだ。ビックリした。あともう少しなのに雨。涸沢岳。奥穂高岳山荘 p m 15 : 30。

7月29日雨音を聞きながら目覚める。 a m 5 : 15 山小屋出発。 a m 6 : 30 奥穂高岳山頂。ずっと雨。吐き気、眠気がある。吊尾根を過ぎ、前穂高との分岐あたりで震えが止まらなくなる。「小家石さんが震えてます！」と声を上げて頂き、すぐさまインストラクターの方からフライシートが二人の体に掛けられ、着替えるよう指示頂く。一部分は濡れているが全体ではなかったので上からフリース、T-シャツ、ダウンと重ね着する。暖かい飲み物、チョコレート、お饅頭、羊羹と差し出され有難く頂く。使い捨てカイロも胸に貼る。取りあえず下ろうと歩き始める。暫くすると震えが収まった。皆さんの厚意に感謝。自分自身でビツ

クリした。更に荷物を持って頂いた。私がこういう状態なので前穂高岳は行かず仕舞。申し訳ない。重太郎新道、岳沢ヒュッテ。pm 15:30 河童橋到着。全員無事下山。有難い。本当に有難い。

いつも天気がいいとは限らない。いつも体調がいいとは限らない。荷物は軽量に。危険の元、迷惑の元。もっと体力を。もっと研鑽を。大変勉強になる山行でした。インストラクターの皆様、登山教室の皆様ご迷惑をお掛けして申し訳ございませんでした。本当にありがとうございました。無事広島まで帰宅出来ました。

## 岳連短信

### 1、雷から身を守る

夏は雷の多い季節です。グラウンド、ゴルフ場、すなはま、会場など開けた場所や山頂のような高所では人に落雷しやすくなります。近くの木に落雷し、電流が人に向かってくる事があります。

そばに高い木があるときは、根や幹から最低 2 倍以上離れてください。姿勢を低くして、傘やゴルフクラブ、釣竿、ストックは手放すか、頭より低い位置に持ちましょう。風や空模様から雷の前兆を感じたときはなるべく早く建物や自動車などの中に避難します。

### 2、賛助会員のお願い

財政の強化のため賛助会員を募集しています。岳連の発展のためご協力をお願いします。

口数 個人 1口 (5,000 円) 以上

加盟団体・法人の場合

1口 (10,000 円) 以上

1、賛助いただける口数でお願いします。

2、申込書と申し込み口数を山岳連盟事務局までお届けください。

支店 (口座番号 (普通) 014-3251234 加入者名

一般社団法人広島県山岳連盟会長 京オ 昭

### 3、大邱八公山 (パルコンサン)

フェスティバル参加者募集

10月5日～6日に大邱八公山 (パルコンサン) フェ

ステバルが開催されるが、このたび大邱広域市山岳連盟から招待があった。岳連として正式な派遣団を派遣することになったので団員を募集している。期間は10月4日下関出発、7日帰国の日程となる予定。正式な日程については近日中に発表される。

## 山の風景 32

### 岩木山 (青森県)

2013・7・13 写真提供 森 智昭 (ひこばえ)



## 編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。

○各研修会、講習会へ参加された方は積極的に報告書を提出ください。随時掲載いたします。

○会員団体会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。

題字デザイン 今村みずほ 編集 仲井正美